

山形県「道の駅」検定 テキスト

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-1	月山	月山あさひ博物村	鶴岡市	国道112号	<p>出羽三山信仰の山である月山のふもとに建つ「道の駅」。施設は国道112号をはさんで建てられていて、それぞれ個性ある内容となっている。メイン施設は「物産館」と「山ぶどう研究所」のある建物。</p> <p>鶴岡市朝日地区では昭和40年代から山ぶどうを原料にしたワインづくりをはじめ、その後、山ぶどうを原種としたヤマソーピニオン、甲州、セイベル9110もつかうようになった。これらはすべて近隣や鶴岡市内の農家の手による栽培品種で、個性あるワインは人気を博している。なかなか手に入らない一升瓶詰にした「村民還元ワイン」赤・白もある。山ぶどう研究所では、試飲やワインの購入のほか、瓶詰などの製造過程を見学することもできる。</p> <p>隣接する「梵字の蔵」では室内壁面に取り付けられたボルダリング設備でクライミングが楽しめる。ガフエ「梵字の茶屋」も併設していて、はるか下を流れる梵字川や川向かいに流れ落ちる龜の滝眺めることができる。また、梵字川に架かる吊り橋のふれあい橋は数十メートルの高さがあり迫力満点。</p> <p>国道を挟んだ北側には出羽三山信仰の歴史を伝える資料が展示された「文化創造館」があり、中には観光案内所が入っている。また、古民家を移転して手打ちそば屋を営む「そば処大梵字」では、朝日地区で栽培されたソバ粉を100%使用し、冷たいそば、温かいそば、名物大ざるなどのそばメニューを提供している。さらに「月山ワイン」や「大文字おやき」、名物・行沢(なめさわ)とちもち」を楽しむことができる。</p>
山形-2	河北	がらっとぴあ	河北町	国道287号	<p>国道287号の最上川にかかる青い橋梁・谷地橋のすぐ脇にある道の駅・河北は、「林家舞楽」を奉納する谷地八幡宮にある、木製の火の見櫓をイメージした全国でも珍しい4階建ての「道の駅」だ。令和5年2月1日にリニューアルオープンした。</p> <p>河北町はかつて、紅花の生産と集散地として栄えた町で、紅花は山形県内ばかりではなく、遠くは宮城県村田町周辺からも紅花が集まり、最上川舟運と北前船を使って京都まで運ばれた。なかでも近郷きっての豪農だった堀米家は、紅花商いで財を築き、その屋敷は紅花資料館として観光に一役買っている。</p> <p>「道の駅」の近くには、べに花温泉、ひなの湯があり、源泉で50℃を超えるナトリウム塩化物泉の泉質が評判で、腰痛、神経痛、冷え性、疲労回復などの効果がある。低料金で宿泊できる「雛とべに花の里 ひなの宿」も併設されている。</p> <p>河北町はスリッパ生産の町。明治時代からぞうりの生産が盛んだったが、昭和40年ころからスリッパ生産に移行して、長年日本一の生産量と品質を誇っている。「道の駅」ではそのスリッパ販売に力を入れていて、紅花、スリッパを中心とした河北町の名産品販売が期待されている。</p>
山形-3	寒河江	チエリーランド	寒河江市	国道112号	<p>「道の駅」としては東北最大級の規模を誇る施設で、地域特産のサクランボをコンセプトにしたテーマパークとなっている。まず目につくのは横に長い中心施設のチエリーランドさがえ。建物には寒河江市だけでなく広く山形県内の物産が並べられ、ここだけで山形のお土産品がそろうのではないかと思われるほど。</p> <p>大人数を収容することができるレストランでは季節限定のメニューが豊富で、いつも行っても新鮮な山形の魅力を味わせてくれる。企業・団体様向け「出前お弁当」シリーズのメニューも豊富で5個から出前を受けている。令和2年には「道の駅ピアノ」が置かれ、誰でも自由に演奏できるようになった。</p> <p>新しくオープンした「chery cafe chou chou(シユシユ)」には、太陽光がふんだんに入る明るいロングカウンターがあり、アラビカ種のトアルコ・トラジャコーヒーを味わうことができる。山形のサクランボと旬のフルーツをふんだんに使用したシユシユパフェやフルーツサンド、グラデーションドリンクなどが人気となっている。</p> <p>ヨーロッパ系サクランボのふるさととされるトルコ、そこでサクランボ文化を紹介しようと建設されたのが「トルコ館」。館内にあるトルコ喫茶ギレン・カフェでは、トルココーヒーが味わえ、水タバコを楽しむこともできる。</p> <p>また「さくらんぼ会館」では、寒河江名物、大人気の手作りアイスが食べられる。</p> <p>令和6年には大規模な屋内型自動遊戯施設やグランピング施設とオートキャンプ場がオープンする予定である。</p>
山形-4	あつみ	夕陽のまち しゃりん	鶴岡市	国道7号線	<p>日本海を背景に、絶景の夕陽が自慢の「道の駅」。季節や天候により夕陽の色や雲とのコントラストも変わり、感動のひと時を過ごすことができ、視界が良ければ新潟県村上市沖にある粟島を望むこともできる。「道の駅」の海側には遊歩道や磯に降りることができるコンクリート製の階段が設置されていて、散策や磯遊びを楽しめる。</p> <p>物産館には地域や庄内の特産品が並べられており、地域特産品の代表は焼き烟農法で作る「あつみかぶ」と「羽越しな布」だ。「あつみかぶ」は山形の伝統野菜で、夏に山の斜面を焼き払って種を撒き、秋に収穫して甘酢に漬けたものが「あつみ赤かぶ漬け」。赤紫の色が独特で、これを目当てに訪れるファンも多い。「羽越しな布」は、山に生えるシナノキの皮から繊維を取りて織った布で、古代織りのひとつ。山形県鶴岡市閏川地区と隣接する新潟県村上市山北町山熊田と雷地区に古くから伝わっている。「道の駅」ではこの「羽越しな布」で作った財布や帽子、のれんなどの伝統工芸品を販売している。</p> <p>庄内の特産品に「じょうゆの実」がある。大豆と、小麦、米に種麹を混ぜて作る発酵調味料。ご飯にのせて食べたり、酒のつまみにしたりするが、これもファンが多く人気の一品となっている。ほかにも、かやの実から作るかりんとう、近くの漁港に上がる鮮魚、干し魚、イカの一夜干しなども販売していて、山と海の恵を楽しむことができる「道の駅」だ。</p>
山形-5	にしかわ	月山銘水館	西川町	国道112号	<p>平成7年(1995年)4月に「道の駅」登録された。当初の立地は最上川支流である寒河江上流部に建設された寒河江ダムサイトにあったが、冬季間の利便性を高めることで、広い敷地を確保することを目的に、平成16年(2004)に現在地に移転し規模拡大させた。移転先にはもともと、「月山自然水」と「月山ビール」の生産施設のほか、レストラン、温泉施設の水沢温泉などがあった。そこに「道の駅」を合わせることで、施設の規模と魅力をアップさせた。この移転により、駐車場は大型バスがは入れるほどの広さへと大きく改善された。</p> <p>レストランと地ビール醸造施設はおなじ建物にあり、食事しながら地ビール製造の様子を見学することができる。地ビールは「月山ミニヒンバー」「月山ビ尔斯ナー」が定番で、季節によっては別のビールを味わうことができ、瓶ビールも販売されている。</p> <p>売店では地域のお土産品が並べられている。「月山ビール」はもちろん、「月山山麓ワイン」赤・白、「銀嶺月山」などの地域の地酒、地域でとれる「こくわ(サルナシ)」のほか、「山ぶどうジュース」、月山山麓に湧き出す銘水をペットボトルに詰めた「月山自然水」などの飲み物がたくさんある。その他にも山菜やキノコの加工品などが目を引く。</p> <p>いきいき直売所では、春の山菜から秋のキノコをはじめ、新鮮野菜と畑作物が所狭しと並んでいる。特に月山名物の「月山筍」は大人気。太いが柔らかく、サクサクした口当たりを楽しんでほしい。</p>

県・番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-6	いいで	めざみの里 観光物産館	飯豊町	国道 113号	<p>福島県相馬地方と宮城県、新潟県を結ぶ国道113号の中間地点に位置する「道の駅」で、県外利用者もとても多い。</p> <p>飯豊町は、米沢牛の主産地として出荷量の40%を占めており、米沢牛と同じ肥育方法で育てた牛肉を飯豊牛として販売している。「道の駅」では、ステーキ用からしゃぶしゃぶ用、切り落としまで売っていて、イベント時にはその美味しい牛肉を買い求めようと、開店前から長蛇の列が出来るほどの人気がある。</p> <p>物産館には山形県置賜地方の商品が数多く、「おみやげ」「青果」「お酒」「民芸品」と4つのコーナーに分けられている。その中で人気ナンバーワンは「あけがらし」。隣町の長井市にある山一醤油が200年前から独自生産している調味料で、米麹にからし、麻の実、生絞り醤油、三温糖を練り合わせて発酵熟成させたもので、調味料としてだけでなく、熱いご飯にのせたり、お酒のつまみにも最適。人気ナンバーワンは山形名物「玉こんにゃく」。ナンバースリーは漬物メーカー三奥屋の「晩菊」となっている。また飯豊町はほどろく特区となっていて、「どぶろく」のほか「どぶろくまんじゅう」などの菓子類がある。</p> <p>レストランでも飯豊牛のメニューが目を引く。「上カルビ丼」や「米沢牛もり盛り丼」、「米沢ラーメン」や「そば」の人気が高い。また駐車場からすぐ入れる「ファストフードコーナー」は、朝9時から営業していて、「山形名物 いも煮」「牛べこ汁」「牛串焼き」が人気御三家となっている。</p>
山形-7	むらやま	村山市 故郷交流施設	村山市	国道 13号	<p>村山市にある道の駅・むらやまは、国道13号をはさんで東西に施設がある珍しい「道の駅」だ。村山地域にはそば屋が多く、なかでも村山市内のそば名店を9軒集めた「最上川三難所そば街道」が知られている。また、村山市内の観光名所・東沢バラ公園では750品種2万株のバラが植えられていて、6月と9月中旬から9月下旬の年2回、バラまつりが開催される。「道の駅」では、市の名物となっているそばとバラにちなんだ商品にいろいろな角度から触れることができる。</p> <p>この「道の駅」でしか食べられない人気商品に「かいもづスティック」と「そばパフェ」がある。この地方ではそば粉をお湯で練った「そばがき」を「かいもづ」と呼んでいるが、その「かいもづ」をスティック状にして油で揚げ、塩を振ったもので、独特のもちもち感が人気の秘密となっている。また紙コップにアイスクリームを入れたパフェに「かいもづ」を刺したのが「そばパフェ」だ。</p> <p>料理長のおすすめは「蕎麦処山形 板そば」と「まるごとトマト ホエー豚のナポリタン」。さらに「塩豚丼」「ソースカツ丼」「天丼」があげられる。山形ご当地グルメとして、鶏肉を使った「鳥中華」と冷たい「鳥そば」がある。またバラの実ローズヒップを練りこんだ「ローズヒップソフト」もここならではの一品だ。</p>
山形-8	とざわ	モモカミの里 「高麗館」 (こうらいかん)	戸沢村	国道 47号	<p>愛称にある「高麗」とは、朝鮮半島で10世紀から14世紀にあった国名。戸沢村は以前より韓国との交流が盛んだったため、「道の駅」の愛称とした。その名のとおり、「道の駅」の建物は高麗時代の建物をイメージしたデザインとなっている。中で販売しているお土産品からレストランのメニューまで韓国一色で、日本にいながら韓国気分を味わうことができると韓国好きに人気である。</p> <p>メイン施設の韓国物産館では、販売しているお土産品やグッズはほとんどが韓国関連のもの。韓国からの輸入品ばかりではなく、村内外で独自に製作した商品も目につく。特に目を引くのは各種ある「梅ちゃんキムチ」。韓国生まれの金梅永(キム・メイヨン)さん、日本名が阿部梅子さんが鶴岡市で経営する「梅ちゃんキムチ本舗」製で、ほかにも焼肉のたれ、韓国式万能たれなどがある。また韓国冷麺風にした「戸沢流冷麺」は、小麦と戸沢村産のそば粉で作った麺となっていて、「梅ちゃんキムチ」「韓国海苔」とともに物産館の顔になっている。ほかにも韓流スターグッズ、韓国の民芸品、もちろん「くじら餅」などの戸沢村の特産品も並んでいる。</p> <p>韓国料理レストラン「colina-コリナ-」では、本格韓国料理を提供している。ちょっと豪華な「今日は給料日(焼肉牛カルビビビンバ)」「青春☆ボーイ(カレー&ハンバーグ&チーズビビンバ)」などのユニークな石焼ビビンバメニューが7種類もある。ほかにも「豚キムチラーメン」「ビリ辛ラーメン」「コムタンラーメン」「岩のリラーメン」と一度は食べてみたいラーメンもたくさんある。</p> <p>韓国の民族衣装「チマチョゴリ試着体験」も行っており、利用時間40分の間に何着も試着でき、記念写真撮影を楽しむことができる。</p>
山形-9	鳥海	(森のエリア) ふらっと (海のエリア) 遊楽里	遊佐町	国道 7号	<p>東北を代表する名峰・鳥海山の麓の遊佐町にあり、「道の駅」は国道7号をはさんで「森のエリア」と「海のエリア」2か所に分かれている。メイン施設は「森のエリア」で、物販、食事処、ファストフード、パン屋、800名収容できる野外ステージなどが入居している。特に人気なのが県魚協婦人部が運営している「元気な浜店」で、店名通り元気なお母さんたちが、吹浦(ふくら)漁港に上がる鮮魚を販売したり、焼きたて熱々の串焼きを提供したりしている。海底に湧く鳥海山の伏流水に含まれるミネラル豊富な水で育った岩ガキのおいしさは格別で、夏一番の人気商品となっている。1月のマダラ、2月のアノコウ、3月のサクラマスと一緒に並ぶ魚が変わり、12月のハタハタまで年間を通して楽しむてくれる。</p> <p>魚以外にも、ひまわりの会が運営する農産物直売所には鳥海山の伏流水で育った新鮮野菜が豊富に並ぶ。ホームページに掲載されている野菜・果物だけでも年間70種類ほど。そのほか味噌やジャム、餅、ヘチマ化粧品などの加工品も並んでいる。</p> <p>別棟の施設にはラーメン「味の駅」とベーカリー工房「ほっぽ」が入居している。「ほっぽ」の焼き立てパンは隠れた人気がある。スタッフおすすめは「ほっぽの白いパン」と「アップルパイ」。白いパンにはカスタードがたっぷり入っていて、買った人はご機嫌になること間違いない。</p>
山形-10	田沢	なごみの郷	米沢市	国道 121号線	<p>福島県会津地方と山形県置賜地方を結ぶ国道121号・大崎レインボーライン沿いにある。「道の駅」の建物は、米沢市小野川地区に建っていた築200年余りの古民家の資材を使って建設されたもの。兜造り風の古民家からは、どこか懐かしいような風情が漂ってくる。</p> <p>敷地の一角には高さ4.2メートル、幅2.7メートルという日本一大きい「草木塔」が立てられている。「草木塔」とは草や木などの自然を敬い、感謝の気持ちをあらわした石造りの供養碑で、山形県置賜地方が発祥の地といわれている。</p> <p>田沢地区的特産であるそばが「道の駅」の人気メニューとなっている。地元のそば打ち名人たちが交代で打つそばは、独特的の風味とのど越しかいといと評判で、引きたて、打ちたて、茹でたての蕎麦を目指して訪れるファンも多い。新緑のころ、周辺の山で採れた山菜の「天盛りそば」は絶品。その他「山菜そば」や「手作りカレー」「カレーうどん」などのメニューも人気。山形自慢の郷土料理いも煮にスパイスで辛みの効いたルーで仕込んだ、和風仕立ての「いも煮カレー」はご当地カレーで人気の一品だ。</p> <p>おみやげには「玉こんにゃく」「米沢牛入りいも煮」などのほか、地域の工芸品「笹野一刀彫」がある。「お鷹ばっぽ」と呼ばれるコシアブラの木の木彫り玩具で、上杉藩主・上杉鷹山が農民の冬の副業として奨励したと伝えられている。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-11	白い森おぐに	ぶな茶屋	小国町	国道113号線	<p>山形県から新潟県に向かって国道113号を走ると、県境の5キロメートルほど手前にある「道の駅」。国道に沿って車窓から見える荒川の赤柴峡の渓谷美が素晴らしい、その景観を楽しみながら走るドライブもまた格別。渓谷は飯豊山地と朝日連邦にはさまれた山峡部で、秋になると名物の紅葉が圧巻だ。</p> <p>「道の駅」の愛称となっている「白い森」とは、町域の95%を占める森林の代表がブナの木だが、ブナの樹脂は白っぽいまだら模様になっていること、豪雪地帯である雪の白さから名付けたもの。</p> <p>「道の駅」の施設は「ぶな茶屋(軽食・休憩コーナー)」、「レストランあいあい」、「物産直売所」、2019年に別棟でオープンした「白い森のくまさん」からなっている。</p> <p>「ぶな茶屋」の売りは地元色(食)満載のファストフード。自家製の「天ぷらそば」「山菜そば」「玉こんにゃく」「おにぎり」など、すべて地元の母さんたちによる手作りだ。「レストランあいあい」は小鉢や小皿に入った総菜を自分で選び定食を作るピュッフェ方式になっている。「たかきび茶碗蒸し」「わらびの煮浸し」「うどの粕漬け」「アマランサスとわらびの粕漬け」「ひえの揚浸し」などがある。あまり知られていない食材名が多いが、すべて「雑穀」といわれる穀物類だ。実は小国町は岩手県の南部地域と肩を並べる雑穀エリアで、その魅力を教えてくれるレストランとなっている。</p> <p>「物産直売所」は地元の自慢商品はそろっており、飯豊山地でとれる山菜、キノコ、鮎をはじめ、山の幸、畑の幸、果樹園の幸が満載だ。新しく町のイメージづくりに貢献するのが「白い森のくまさん」。外観が真っ白い建物の売り場は東西に分かれている、東側は小国町と山形県のお土産品、西側は飯小国町の新鮮野菜・山菜の加工品、つる細工などの工芸品からなる「白い森ブランド」品がそろっている。</p>
山形-12	おおえ	テルメ柏陵	大江町	国道287号	<p>大江町は民謡「最上川舟唄」発祥の町として知られている。鎌倉時代から戦国時代に、このあたり一帯を納めていた大江公の左沢楯山城(あてらざわ たてやまじょう)があつた城跡地の日本一公園からは、大きくカーブを描く最上川の絶景を見渡すことができる。町の中心部を流れる最上川では、江戸時代から明治時代にかけて最上川舟運(しゅううん)が行われ、左沢はその川港として大いに栄えた。</p> <p>そんな歴史ある町に作られた道の駅・おおえは、「道の駅」のすぐ背後を流れる最上川沿いにある。すぐ隣にはテルメ柏陵健康温泉館があり、国道287号の観光と物販の中心となっている。「道の駅」の道路沿いに建つ大きな看板は、最上川舟運の「小鶴舟(こうかいぶね)」をイメージしたものとなっている。</p> <p>大江町の特産品はフルーツ。リンゴを筆頭に、ラ・フランス、スマモ、モモ、サクランボなどが綱く。また新鮮な野菜から春の山菜、秋のキノコなどが「道の駅」の前庭に設置された大型テントで販売されているが、お手頃な値段がうれしいと買物客に人気がある。</p> <p>店内の食事処ではそば・うどんのほか、「あんこ餅」「なつとう餅」を一年中提供している。それぞれ餅は6個入りとハーフサイズの3個入りがあり、テイクアウトもできる。1口サイズなので小腹がすいたときには軽く口に運ぶことができ重宝する。</p> <p>お土産品として珍しい「あてらざわせんべい」が売られている。昔、出羽三山には、15歳の初参りをする風習があり、その時のお供え物としてお金をかたどった穴のあいた煎餅をお供えしたと伝えられている。真ん中に穴が開いたドーナツ状のせんべいをイグサでひとくくりにしたものである。</p>
山形-13	庄内みかわ	いろり火の里	三川町	県道333号	<p>広大な田んぼが広がる庄内地方の中心的な場所に位置する三川町。そこに物産館、屋外施設、わんぱく広場、温泉施設、宿泊施設、ホールなどをまとめて建設したもので、三川町・鶴岡市・酒田市など広い範囲から人々が訪れる。</p> <p>物産館マイデルの「マイデル」とは庄内弁で「待っているよ」という意味。そこで待っているのは農業地帯である三川の米、野菜、食事、軽食、お土産品など。季節によって収穫される農産物が変わるので、行くたびに違う商品が並べられている。5月の節句から6月頃に行くと、全国的に珍しい「笹巻」が販売されている。餅米を笹の葉で三角形に包んでイグサなどで結び煮るのだが、水ではなく灰汁の上澄み液で煮るのが庄内流。この時使う灰汁はナラやブナ、サクラなど広葉樹の灰を使う。煮あがった笹巻の餅は黄色みがかった色になり、ブルンとした独特の食感になる。これにきな粉や黒蜜をつけて食べるの。</p> <p>食事処では「まんぱくとろろ飯セット」がおすすめ。三川名物の「とろろ飯」に庄内名物「麦切り」(少し細めのうどん)がセットになっていて、おひたしと漬物がつく。「鴨でんでん」という鴨肉が入ったうどん、そばもあり、三川産の米粉で作る「米っ娘うどん」もおすすめ。「しょうゆの実 豆乳アイス」「菜の花アイス」なども人気だ。</p>
山形-14	たかはた	まほろばステーション	高畠町	国道113号	<p>高畠町では「まほろばの里」という言葉をイメージに使っている。「まほろば」とは、「まほら」という古語に由来する言葉で、「丘や山に囲まれた穀豊かな住みよいところ」(高畠町観光協会HPより)を表している。実際に高畠町を訪れると、町は周囲の小高い丘や山に囲まれていて、水田、果樹園などが多く目につく。古代から縄文の史跡も多く、ほかの町ではあまり感じることがない。</p> <p>道の駅・たかはたの向かいには、阿久津八幡神社が建っていて、境内には山形県唯一の三重塔がある。神社に隣接しているのが「まほろばの里歴史公園」で、縄文時代の住居を再現している。そんな町の歴史は「道の駅」のネーミングにも表れ、「レストラン縄文」「縄文売店」と名づけられている。駅内にある観光案内所に行くと、各種観光パンフレット、歴史パンフレットがそろっている。</p> <p>縄文売店には高畠町特産品がずらりと並ぶ。高畠町はフルーツ王国でもあり、高畠町特産のラ・フランスやリンゴなどの加工品が多い。町内にある「セゾンファクトリー」や「たかはたファーム」の商品は、国内の有名百貨店や高級食材店でも取り扱いされているが、そこで生産されるジャム、ドレッシング、飲む酢、スイーツなどが「道の駅」に置かれている。</p> <p>キャンピングカーで旅行を楽しむ人が増えてきているが、キャンピングカー専用の施設がRVパークだ。東北の「道の駅」には3か所あるが、そのうち1か所は道の駅・たかはたにある。シャワー設備が備わっていて、利用者に喜ばれている。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-15	天童温泉	わくわくランド	天童市	国道13号	<p>道の駅・天童温泉は天童市の中心部に近く、天童温泉を構成する11軒の温泉ホテルに囲まれている。天童温泉の歴史はそれほど古くなく、明治44年(1911)に田んぼで井戸を開つていて発見された。「道の駅」には入浴施設はないが朝6時から夜9時まで無料で楽しむことができる。源泉かけ流しの足湯・駒の湯がある。足湯の建物は将棋の駒をかたどっているのが特徴で、いつ行っても利用者の姿を見ないときはないほど人気。</p> <p>メイン施設は天童市森林情報館「もり～な天童」。以前は、観光案内と森林に関する常設パネル等の展示、トイレ、休憩が中心の「道の駅」だったが、令和2年6月にリニューアルし、新しい観光案内カウンターを作った。インバウンド対応ができるようにして、観光案内専門のスタッフが常駐している。</p> <p>天童市は果物の女王と呼ばれるラ・フランスと将棋駒の生産量が日本一。ラ・フランスをはじめとする天童のフルーツの魅力を発信する「テント ラ・フランススクアトリー」では、「ラ・フランススペイ」や旬の果物を使用した「ジェラート」、「カリー・パン」を販売している。さらに将棋駒を幅広くPRするために、製作美演や市内の工人などが作った将棋駒の展示を行っている。</p> <p>また、屋外には大型遊具で遊べる多目的広場があり、夏は噴水が上がり、子どもたちの歓声が聞こえてくる。観光客にとっても、市民にとっても、楽しく遊べる施設だ。隣接する産直店「サンピュア」では、天童や周辺の野菜、果物、お土産品がそろっていて大変便利だ。</p>
山形-16	尾花沢	花笠の里「ねまる」	尾花沢市	国道13号	<p>道の駅・尾花沢の愛称「ねまる」は、尾花沢で使う「くつろぐ」という意味の方言。「道の駅」の施設でゆっくりくつろいでください」という思いから名づけたという。尾花沢は「花笠おどり」発祥の地であり、夏スイカの生産量日本一である。「道の駅」では花笠を手にしたスイカのゆるキャラが出迎えてくれる。</p> <p>尾花沢はおいしいお米の産地として売り出していく、「道の駅」店頭でも販売している。お米に次ぐ農産品はフルーツである。スイカは分類方法によって果物に分類されたり野菜に分類されたりしている。夏に「道の駅」へ行くと、建物前にスイカ販売の大型テントが張られる。テントのデザインはスイカの模様になっていて、そこではスイカサイダー やジュース、スイカソフトが提供されている。駅舎内に入るとスイカのカレー、ドレッシング、ジャム、まんじゅう、漬物などがある。カレーは水を使わずにスイカの完熟果肉で煮込み、尾花沢牛を入れてレトルトにしたもので評判がいい。また、サクランボ、モモ、ブルーベリーなどのフルーツも人気となっている。</p> <p>尾花沢は山形県内でも有数の牛肉産地となっていて、現在は尾花沢牛の育成に20軒以上の酪農家が取り組み、8千頭以上の黒毛和牛を生産している。その和牛を「道の駅」では「牛もつ煮込み定食」や「串焼き」として提供している。</p> <p>さらにお土産品としておすすめなのが、地域の伝統菓子「くじら餅」である。餅米とうるち米の米粉に砂糖やクルミを入れ混ぜて形を整えて蒸したもので、日持ちもするのでお土産に最適だ。</p>
山形-17	白鷹ヤナ公園	最上川あゆとぴあ	白鷹町	国道287号	<p>「山形の母なる川 最上川」といわれる最上川には、数か所の鮎のヤナ場がある。そのなかで最大といわれるのが、道の駅・白鷹ヤナ公園にある施設で、日本一大きいともいわれている。最上川の川幅いっぱいに設置されたヤナ場は、見る人を圧倒する規模。4月下旬から10月末ころまで、ヤナ場を使ったさまざまなイベントが開催され、多くの人にぎわっている。ヤナ場の解禁は8月1日だが、アユ料理は一年中楽しむことができる。</p> <p>「道の駅」のメイン施設は「あゆ茶屋」で、料理の提供が多く、地域の特産品を販売する売店と一帯になっていて、買い物、食事、休憩をすることができる。「あゆ茶屋」で提供する料理はもちろん鮎料理が中心だ。ヤナ売店で炭火で焼いた絶品の鮎を使い、塩焼きと田楽の2匹の鮎に数点の小鉢料理がつく「あゆ定食」が一番人気で、「あゆまるごとフライ定食」もある。単品では「鮎の塩焼き」「甘露煮」「刺身」「鮎そば」なども提供している。また、同じ川魚料理としては「うな重丼」(2日前まで要予約)やイワナ料理も提供している。</p> <p>「あゆ茶屋」の向かいにある「ヤナ売店」では、「炭火 アユの塩焼き」「豆腐田楽」「アユから揚げ」「おにぎりセット」などを手軽に購入でき、ベンチに座って楽しむことができる。</p> <p>お土産に絶好なのが「鮎の寒風干し」。白鷹町で開発した鮎を寒風にさらした加工品で、真空パックで販売していて、「あゆの甘露煮」とともに人気商品となっている。</p>
山形-18	あさひまち	りんごの森	朝日町	国道287号	<p>山形県朝日町は、山形県の中央部を南北に貫く朝日連峰の、中心部分の山麓にある。日本百名山の一つに選定されている朝日連峰の主峰・大朝日岳(1,870メートル)への登山口は朝日町に3コースあり、登山好きには知られている。朝日町の山中には、空気をご神体とする空気神社がある。ブナ林の中に5メートル四方のステンレス板を空に向けておいたものが神社というユニークなもの。自然とブナ林を愛する朝日町らしさがある。</p> <p>朝日町の特産品の代表格はリンゴ。「道の駅」の建物は空から見るとリンゴの形をしていて、トイレの屋根はリンゴの葉っぱの形に似るほど、リンゴにこだわっている。</p> <p>また朝日町で生産されるリンゴの「サンふじ」が有名で、「無袋ふじ」発祥の地としても知られている。「無袋ふじ」とは、実際に袋をかけて育てる無袋栽培のことと、日光があたり甘みが増すのが特徴である。この無袋リンゴ以外に9月から11月にかけて数十種類のリンゴを仮設テントと店内で販売している。またリンゴを使った加工品も多く、人気の「完熟リンゴソフト」と4種類のアップルパイ、ジュース、ジャム、コンポート、リンゴ菓子、リンゴ麺などが店内や入り口近くにある「アップルマルシェ」で販売している。リンゴの「森ブレンド」というコーヒー豆も販売していて、軽食コーナーの人気は「りんご冷麵」。リンゴの果汁を麺に練りこんだもので、さわやかな味がする。</p>
山形-19	しょうない	風車市場	庄内町	国道47号	<p>庄内町は「風の町」。最上川沿いに吹いてくる風はとても強い。日本三大悪風のひとつ、「清川だし」とも呼ばれるその強風を逆手にとって、市町村合併前の立川町が平成5年から、全国初の行政による風力発電を開始した。道の駅・しょうないの近くにも大型風車があり、そのことから「道の駅」の愛称が風車市場となった。</p> <p>庄内町は農業の町でもあり、「コシヒカリ」や「つや姫」のルーツとなり、また酒米としても優秀だった「亀ノ尾」発祥の地である。</p> <p>「道の駅」でも米の販売に力を入れており、「吉祥ファーム」で生産される「ゆうだい21」という米のほか、「ひとめぼれ」「つや姫」「はえぬき」「雪若丸」などが並んでいる。また、最上川の水が豊富な栄養分を運んできて、地味豊かになった畑では多種多様な葉物類や根菜類などの野菜が収穫され、「道の駅」の店頭をにぎわしている。春の山菜も「月山荀」はじめ多くの山の幸が並ぶ。</p> <p>「風車の見える主婦レストラン いろどり」では地元のお母さんたちが腕を振るっている。提供されるメニューのご飯はお代わり自由。王道メニューの「庄内豚しょうが焼きと半そばセット」は、食材が素晴らしい味は格別だ。「ふるさと帰ってきたような懐かしい味をお出ししたい」というコンセプトで、多くのメニューを味わうことができる。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
山形-20	川のみなと長井		長井市	国道287号	<p>長井市は最上川舟運(しゅううん)で栄えた商人の町。長井より上流は最上川が浅くなるため、本格的な舟運はこの川港がスタート地点だった。荷物は米沢藩領の物資を中心で、川舟には米、麻に似た繊維を取る青麻(あおぞ)や米沢織、穀類などを荷積みした。また河口である酒田からは海産物、塩、砂糖、京都の古着などが運ばれてきた。長井の商人はそれらの物資を売り買いて財を築いて行つた。その川港があつた場所に「道の駅」がつくられた。</p> <p>長井市では朝日連峰からの伏流水が豊かに湧き出す。その湧水は飲料としておいしいほか、野菜や果樹の生育、食品加工などに向いている。また、長井市では一般家庭から出る生ごみを堆肥にして農業の土づくりに活用する「レインボープラン」に早くから取り組み、安全安心な野菜作りをすすめてきた。サトイモ、ジャガイモ、ダイコンなどの根菜類、行者菜、白菜、キャベツなどの葉物からトマト、ブロッコリー、ナス、さらに果樹としてイチゴ、メロン、サクランボ、リンゴ、ブドウなどが作られ、それらは「道の駅」の店頭に並ぶ。そのほか、漬物や果樹、馬肉、ハムなどの加工食品から、みそ餅、日本酒、菓子類など長井の多彩なおいしいものが所狭しと並んでいて、目移りするほどだ。そして長井市は競技用けん玉生産日本一で、「道の駅」では市内で生産されたけん玉が販売されている。</p> <p>フードコートではご当地グルメが目を引く。「長井ブラック醤油ラーメン」、2種類のカレーが盛られた「日本一のけん玉カレー」、「米沢牛極み焼肉丼」をはじめ、平日限定の「地産ランチ」、長井の食文化である馬肉料理など、数多くのメニューがある。</p> <p>また、ここを拠点に「レンタルサイクル」などで市内周遊もおすすめとなつてている。</p>
山形-21	米沢		米沢市	県道1号	<p>米沢市ばかりでなく、山形県内陸南部、置賜地方の食・特産品・工芸品・観光の発信拠点となるよう建設された「道の駅」。山形県全体の周遊観光のゲートウェイとして、「重点道の駅」に認定されている。「道の駅」駅舎内に、観光案内カウンターを設け観光案内を行つていて、インバウンド対応の専門職員がいる。</p> <p>お土産コーナーは、農産物販売と特産品販売という二つの構成からなっている。農産物販売は置賜一帯から安全で新鮮とれたての野菜、果物を集めている。目を引くのはお弁当と総菜、漬物の種類が多いこと。地元の女性たちが中心になって作っている「かあちゃんの台所」の総菜と弁当は朝オープン時からよく売れている。また、人気の駅弁、米沢牛の「牛肉どまん中」「牛肉道場」が並べて売られている。ほかにも、「米沢牛ビーフカレー」「米沢牛サラミ」「米沢牛せんべい」などのほか、「米沢牛の切り落とし」など、米沢牛商品が盛りだくさん。</p> <p>特産品売り場には置賜こだわりの特産品が置かれている。笠野一刀彫(お鷹ぼっぽ)、米沢の織物「米織小紋」のハンカチ、マスク、ネクタイ、吾妻袋などが魅力的。</p> <p>特産品販売所と通路を挟み、山形県全体の日本酒、ワイン、クラフトビールが並ぶコーナーもあり、お酒の品揃えが豊富である。</p> <p>米沢の食はフードコート、ファストフードコーナー、米沢牛味「牛昆亭(ぎゅうびてい)」で構成されている。フードコートは「牛どんぶり」の謙信亭、「米沢ラーメン」の毘沙門、蕎麦処の「十割庵」からなっている。ファストフードではソフトクリーム、米沢牛串、米沢牛入りメンチカツ販売している。牛昆亭は米沢牛ステーキレストランで、最高級の米沢牛の希望部位を希望の大きさで調理してくれる。米沢牛の寿司や牛鍋定食などもあり、米沢牛のおいしさを堪能するができる。</p> <p>道の駅・米沢のスタンプは、江戸時代後期の米沢藩主である上杉鷹山をモチーフにした似顔絵と「なせばなる」の名言が描かれている。</p>